

＜マイクロファイバー不織布vsセミゲル不織布比較＞

| | マイクロファイバー | セミゲル |
|---------------------|---|---|
| 繊維概要 | ①ベース素材・・・レーヨン等再生繊維 ②ベース素材を極細繊維(数 μm (1マイクロメートル=1/1000mm)にし、ランダムに3次元構造を作る | ①ベース素材・・・コットン、テンセルなど ②ベース素材の不織布に、多糖体ポリマーを配合した不織布 |
| 使用時間 | 10分から最大15分までを推奨 | 10分から最大20分までを推奨 |
| 使用時間超の問題とは | ①15分以上肌に付着させたまましていると、不織布が乾燥し、肌に供給した美容液や肌水分を吸収する可能性が高まる ②15分超の長時間肌密着により、肌がふやけた状態となり、バリア機能が低下する可能性 | ①20分以上肌に付着させたまましていると、不織布が乾燥し、肌に供給した美容液や肌水分を吸収する可能性が高まる ②20分超の長時間肌密着により、肌がふやけた状態となり、バリア機能が低下する可能性 |
| 希釈等、美容液への影響 | 問題なし | ゲル成分(ポリマー)が美容液に溶け込み希釈する等、若干美容液組成内容が異なってくる |
| 肌密着度・肌感触 | 一般不織布比較、高い | マイクロファイバーより高いゲルによる密着感 |
| 給液量比較 | セミゲルに同じもしくはやや劣る | マイクロファイバーに同じもしくは優る |
| 吸液力(美容液吸収ロジック) | 直径数 μm の極細繊維が作る3次元構造体による毛細管現象(*)で液を物理的に保持する | ①ポリマーによる美容液の吸収(ゲル状態での保持) ②不織布部の極細繊維が作る3次元構造体による毛細管現象(*) (物理的保持) |
| 供液力(美容液供給ロジック) | ①美容液を含んだ不織布の重力による漏出 ②貼り終わった後の不織布伸縮作用による美容液放出 | ①体温(36度前後)によるゲルの融解(美容液放出) ②美容液を含んだ不織布・ゲルの重力による不織布側に含まれた美容液の漏出 ③貼り終わった後の不織布伸縮作用による美容液放出 |
| 供液上の補足 | ①供液スピードは速い ②15分以上肌に着けていると、不織布が渴き始め、肌水分を逆に吸収する可能性あり | ①ゲルの融解に時間がかかり、給液スピードは遅い。20分程度では溶解しきれない可能性あり ②20分以上肌に着けていると、不織布部の乾燥が始まり、肌水分を逆に吸収する可能あり |
| 価格感 | 不織布の中では最も高額 | マイクロファイバーより高額 |
| アピール力 | ＜供液重視型素材＞ ①美容液の供給という製品の本质を訴求できる ②”マイクロファイバー”＝”極細繊維”＝肌感触力・密着力が高いのでは？という良いイメージ感も構築できる | ＜テクスチャー重視型素材＞ ①不織布の良さ×ゲル素材の良さのハイブリッドの魅力 ②ゲルによる肌密着感の高さにより触感・高級感は得やすい |
| (*) 毛細管現象と美容液保持力 | ①毛細管現象とは、細い隙間や管に液体が自発的に吸い上げられる現象で、マイクロファイバーのような繊維間の隙間が細かいほど強く働きます。 ②美容液を保持・供給する力(供液力)は、(i)繊維の細さ、(ii)繊維間の隙間の大きさ・均一性、(iii)繊維の親水性に依存し | |